人と音を結ぶ
Classic Nagoya
クラシック名古屋
〒460-0024
名古屋市中区正木四丁目8番7号れんが橋1F
TEL (052) 678-5310　FAX (052) 678-5330
https://clanago.com
プレイガイド
アイ・チケット
☎0570-00-5310

ナゴヤ劇場ジャーナル®

◆発行／マネージメント・プロ　◆編集／プランニングオフィス白壁　◆協賛／クラシック名古屋

MANAGEMENT PRO
業務内容
①舞台・イベントの企画・制作・マネージメント
②芸術コンサルティング
③タレントのマネージメント
④ナゴヤ劇場ジャーナルの発行
株式会社マネージメント・プロ
〒461-0004 名古屋市東区葵2-11-22 アバンテージ葵ビル301
TEL：052-508-5095　FAX：052-508-5097
E-mail：mane-pro@mane-pro.com
HP：http://www.mane-pro.com

出会いをテーマに30周年記念公演

倉知　可英

10月17日 昭和文化で「螺旋の旅」

デビューリサイタルから30年。現代舞踊の求道者・倉知可英が10月17日（午後2時）昭和文化小劇場で記念公演「螺旋の旅～身体で紡ぐ、歴史と循環のストーリー」＝名古屋市民芸術祭2026参加＝を催す。

倉知は名古屋地区に現代舞踊の礎を築いた大叔母・奥田敏子（1920～79年）に手ほどきを受け舞踊家としての人生を選択。父の八洲土、叔母の外子、東京の石井みどり・折田克子（母・娘）らに師事し、後にフランスに留学。ジャン＝クロード・ガロッタのもとで研鑽を積んできた。

記念公演には和太鼓の神谷俊一郎、ダンサーの五代菜月・果凛（姉妹）、近藤拓斗、外子、そして倉知が主宰しているstudioK.Knagoyaのメンバー（12人）が参加。プログラムは①和太鼓とのコラボレーション「幽光」②折田克子振付作品をリメークした「昨日の客（ひと）」③30年間の出会いをテーマにした「玉響の邂逅」の3部作を切れ目なく演じる。

倉知は「大叔母が瑞穂区にスタジオを開設してから81年になります。そのスタジオで大叔母―父と叔母―そして私へと続いた現代舞踊の足跡を私なりのダンスで表現したい。この公演を終えた後、リセットされた自分に出会えるのを楽しみにしています」と熱演を約束。

全指定席4500（当日5000）円。予約、問い合わせは℡080（9495）0075。


デビューリサイタルから30年、舞踊歴50年を迎えた倉知可英



ロザリア&Ry0〝甘い痛み〟を音楽に込めて

209 ロザリア・シャントゥ・ラ・ドゥース・ドゥルール

ヴィジュアル系メタルバンドのボーカルとして活躍したロザリアと、ピアニストRy0によるユニット「ロザリア・シャントゥ・ラ・ドゥース・ドゥルール」。意味は「甘い痛みを歌う」。


ロザリア㊧とRy0

音楽の熱の部分はロザリアの歌の力、緊張感の部分は僕のピアノが担っている」と話す。

楽曲制作、ライブの他、「さらに聴く人を広げたい」と高齢者施設の訪問にも精力的だ。歌う場を広げることで、さまざまな出会いも生まれたという。

シャンソニエでのライブも初めて。「エルムは歴史や伝統がある場所で、珍しく緊張した」と話すロザリアの横で、Ry0は「ピアノを始めた切っ掛けはYOSHIKIさん。クリスタルピアノを弾けたのは感慨深かった」と笑う。

エルムのステージに活動を支えてくださった歌手や演奏家をはじめ、音楽に満ちた空間をともに創り上げてくださった音響、照明などのスタッフにもお集まりいただく。故人のオリジナル作品や訳詞の数々に加え、エルムと深いご縁があり、同じく今年逝去された菅原洋一さん、美輪明宏さんとのゆかりを感じていただける作品も、感謝と追悼の思いを込めてお届けしたい」と話す。

29日は入場料6000円（全席自由）。問い合わせは℡052（733）0085、カフェ・コンセール・エルム。

シャンソンの扉

〝Mr.シャンソン〟加藤修滋さん偲び

10月28日 芸術創造センターで「お別れの会」


故・加藤修滋さん

29日には「追悼コンサート」
エルムゆかりの歌手が総出演

3月に逝去したカフェ・コンセール・エルム創始者でピアニストの加藤修滋さんの「お別れの会」「追悼コンサート」が10月28、29日（ともに午後4時30分）芸術創造センターで開催される。両日とも司会は小堀勝啓。


青山　桂子


岡山加代子


松本　幸枝


水野　喜久

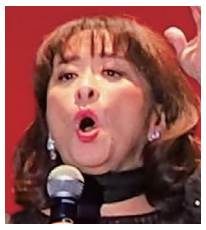
修滋さんは、名古屋を拠点にシャンソンの隆盛や国際文化交流に尽力。日仏シャンソン協会日本支局長、フランス・シャンソン芸術協会日本総局長などを務め「名古屋巴里祭」など様々なイベントを企画・開催した。ピアニストとしてもフランス政府から芸術文化勲章を授与され、50年を超える演奏活動を行った。

28日「お別れの会」は場内に献花台を設置。式典では修滋さんの歩みや功績を振り返る。入場は無料で誰でも参会できる。29日「追悼コンサート」は、修滋さんと親交のあった歌手、演奏者や舞台スタッフなどの仲間たちが集合。故人が愛した音楽を通して、その人生を振り返る。

出演は青山桂子、岩城康子、岡山加代子、小川京子、清水美帆、芹沢祥子、松本幸枝ほか。客演には瀬間千恵、川出祥代、水野喜久を迎え、フィナーレにはエルムシスターズがステージを彩る。

修滋さんの長男で後継者の加藤祐滋は「故人とともに音楽の道を歩み、活動を支えてくださった歌手や演奏家をはじめ、音楽に満ちた空間をともに創り上げてくださった音響、照明などのスタッフにもお集まりいただく。故人のオリジナル作品や訳詞の数々に加え、エルムと深いご縁があり、同じく今年逝去された菅原洋一さん、美輪明宏さんとのゆかりを感じていただける作品も、感謝と追悼の思いを込めてお届けしたい」と話す。

29日は入場料6000円（全席自由）。問い合わせは℡052（733）0085、カフェ・コンセール・エルム。


川出　祥代


瀬間　千恵

松井誠迎えFMS40周年記念コンサート

10月1日 愛知県芸術劇場コンサートホール


松井　誠


渕本晴都子

声楽家渕本晴都子が主宰するフチモト・ミュージックスクール（FMS）が、舞台俳優で舞踊家の松井誠を迎え、10月1日（午後2時）愛知県芸術劇場コンサートホールで「40周年記念オータム・コンサート」を開く。

松井は1986年に「劇団誠」を結成。大衆演劇界の名女形として注目を集め、2000年には中日劇場で座長公演を成功させ、一躍全国区の人気スターに。自ら創設した新舞踊「誠心流」家元でもある。

当日は渕本、松井のほか落合健史、森口紀代美、川口麻理子そしてFMS生徒34人が趣向を凝らしたステージを展開。演奏は赤尾茂クインテットにアコーディオンの名手アンジェロ・アクィリーニが加わる。

全自由席1000円。℡052（937）4895。

フォーサイスカンパニーで活躍した島地保武とラップから絵本まで多彩な言葉を紡ぐ環ROY。
客席やその日の空気を受け取りながら
動き、音、声、言葉が即興的に立ち上がる。
毎回異なる表情を見せるのも
『ありか』の魅力だ。
©HATORI Naoshi


9月19日｜土｜14:00 19:00
20日｜日｜16:00
愛知県芸術劇場小ホール
ダンサー・振付家
島地保武
（愛知県芸術劇場ダンスアーティスト）
×
ラッパー
環ROY
初演10周年記念凱旋公演
ありか
主催・企画・制作・お問合せ
愛知県芸術劇場
TEL:052-211-7552

ル月森幸哉との共演で再び立つ予定だ。

（聞き手・竹本真哉）

舞台批評

ユニットmoom

田中りえ&すみれの母・娘ユニット「moom」が「音楽×ダンス×アート～偶然の巡り合わせ」（7月31日・千種文化小劇場）を開いた。主なプログラムは第1部の創作舞踊劇「mummy（ミイラ）」と第2部の「くるみ割り人形」。

出演は金澤志保バレエスタジオの面々とmoomの二人、そして4人の演奏家ほか。舞台上には彫刻家・白水ロコによる2羽の巨大な蝶や、ヒトの顔を持つ不思議なヤギが登場し、シュールな空間を描出した。

「mummy」で描かれているのは生と死、時空間が交錯する異次元の世界。

巧みな照明効果に、客席の子どもが「こわーい」と言って泣き出した。感心したのは、12人の出演者全員がドラマを理解し、自分たちが誰なのか、何を思っているのかを理解して演技していたこと。

「くるみ割り人形」は、従来の構成や演出を一度バラバラにして、円形舞台に合わせて再構築（振付・金澤志保）。音楽も場面に合わせ、生演奏（クラリネットの二重奏＋ピアノ）と録音を併用し、楽しい音楽劇に仕上がっていた。統一された視線、随所に他人への思いやりが感じられる演出に好感を抱いた。（茂）

シュールな創作や斬新「くるみ」



「くるみ割り人形」（撮影・服部義安）



「カンタータ〝愛…〟地に」（撮影・中川幸作）

ACO記念公演

〝愚かな歴史〟壮絶カンカータで

ACO愛知室内オーケストラが「第100回定期演奏会」（7月31日・愛知県芸術劇場コンサートホール）を開いた。指揮は音楽監督の山下一史。主作品は座付き作曲家・権代敦彦の「カンタータ〝愛…〟地に」（初演）。多治見少年少女合唱団&シニアコアと、オルガンの大平健介が共演した。

これまでに聴いたことのないほどの、凄まじいカンタータだった。オーケストラが放つのは断末魔の金属音。歌というより叫びに近い合唱の抑揚と強弱。全5楽章で繰り返される「5、4、3、2、1」のカウントダウン。その後に起こる破壊と壊滅。今もなお世界中で起こっている〝人類の愚かな歴史〟が繰り返されるのである。

オーケストラは楽譜と激しく格闘するで戦場の映像を見ているようだ。また合唱団の少年少女は直立不動ではなく、向きを変えたり、最終章では客席に降りてきたりもする。そんな動きにも作家の意図が感じられる。

終演後のカーテンコールで登壇した作曲の権代敦彦の「愛…〟地に」（初演）。多治見少年少女合唱団&シニアコアと、オルガンの大平健介が共演した。

これまでに聴いたことのないほどの、凄まじいカンタータだった。オーケストラが放つのは断末魔の金属音。歌というより叫びに近い合唱の抑揚と強弱。全5楽章で繰り返される「5、4、3、2、1」のカウントダウン。その後に起こる破壊と壊滅。今もなお世界中で起こっている〝人類の愚かな歴史〟が繰り返されるのである。

オーケストラは楽譜と激しく格闘するで戦場の映像を見ているようだ。また合唱団の少年少女は直立不動ではなく、向きを変えたり、最終章では客席に降りてきたりもする。そんな動きにも作家の意図が感じられる。

終演後のカーテンコールで登壇した作曲の権代敦彦と合唱指導の柘植洋子、指揮の山下が、舞台上で互いの健闘をたたえあった。彼らの姿が、戦禍を生き延びた戦友のように見えた。

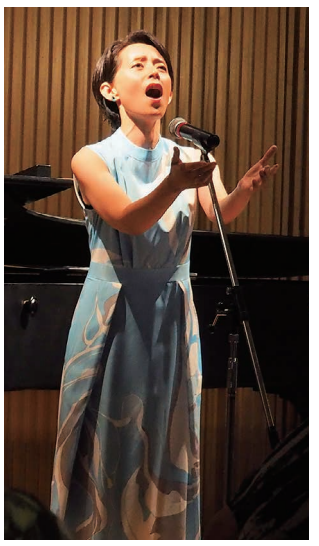
強く艶やかなヴォイスが魅力

シンガー榎本玲子

シャンソン、カンツォーネを得意にするシンガー榎本玲子がリサイタル「三位一体」（7月18日・高浜市ピアノホールF）を開いた。タイトルはヴォイス（榎本）、サクソフォン（大塚加奈恵）、ピアノ（片桐一篤）のアンサンブルを意味したもの。

榎本のソロ・ライヴを見るのは初めてだったが、音程やリズムが良く、ルックスも良い、何より強く艶やかなヴォイスが魅力だ。この日は日本と海外のポップス14曲をすべて日本語で歌った。サクソフォンとの兼ね合いが気になった曲もあったが、総じて楽しいコンサートだった。

前半ではシャルル・アズナブール作詞の「八月のパリ」、後半では渡辺真知子作曲の「かもめが翔んだ日」が際立った。畳みかけるようにラストに向かうドラマチックな歌唱は圧巻。難を言えば曲間の拙いMCだが、それも彼女の魅力といえば魅力なのだろう。



ピアノホールF（高浜市）で歌う榎本玲子





推奨公演

西川文紀「紀和会」



西川　文紀

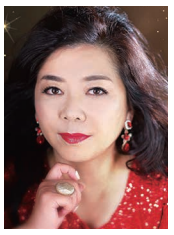
日本舞踊西川流の舞踊家・西川文紀が10月10日（午後1時）北文化小劇場で第11回「紀和会」を催す。文紀は俳優としても活躍中で、門下生にも俳優が多い。

第1部は古典。文紀の「江戸風流」、紀貴の「女太夫」、紀里の「浅妻船」、紀知の「英執着獅子」ほか。俳優ならではの表現力で、それぞれの主人公を描き上げる。

第2部は若鯱連（客演）の「西三河阿波踊り」で開幕。Mrs.GREEN APPLEの「ダンスホール」日舞版の披露も。

全自由席3000円。℡0567（95）5258

鈴木さちあ



鈴木さちあ

ソプラノ鈴木さちあが9月22日（午後3時）東文化小劇場で「歌は祈り　声は光」を開く。自身のライフワークとして開催している参加型コンサート「健康歌声」の第50回達成と、初の著書「うたたま～歌霊」の出版を記念してのリサイタルだ。

プログラム第1部は「あざみの歌」「月見草の花」など日本の歌曲。第2部はテノール本多信明を迎え、オペラ「椿姫」「蝶々夫人」のアリア、二重唱を披露する。ピアノ演奏は森井綾子。劇作、演出家の川村ミチルのナレーションが付く。℡052（36635）8716。

演奏家ソサエティー

創作オペラの制作、上演で定評のある名古屋演奏家ソサエティー（代表・澤脇達晴）が10月4日（午後1時30分）伏見の電気文化会館で「芸術の秋コンサート」を開く。

プログラムはオペラ「トスカ」「椿姫」ほかのアリア。「いのちの歌」「おてもやん」などの日本歌曲や民謡。作曲家でピアニストの中村節による新作「An improvisation ～phantasia」の初演、佐々木唯道の「ピアノ協奏曲」（グリーグ作曲）も。



出田　光代

出演は声楽家の出田光代、澤脇達晴、夏目久子、手塚淑子、水谷友香、郡由美ほか。

全自由席3000円。℡0564（22）7368。

結婚相談所 優 de マリアージュ

若手演奏家育成するスタクラ・アカデミア第7期生10人決まる



来年3月にはガラ・コンサートを開く

若手演奏家を育成する「スター・クラシックス・アカデミア」の第7期生10人が決まり、講習が始まった。今年は愛知、岐阜、三重県などから計25人の応募があった。第一次の書類と演奏動画、二次の実技と面接の審査で、演奏技術だけでなく、音楽に対する姿勢や情熱、将来性などで総合的に判断した。

7期生はピアノが2人で例年より少なく、ヴァイオリン、ソプラノが各2人。管楽器はフルート、クラリネット、サクソフォンに、ユーフォニアムが初めて参加。昨年に続いて男性がゼロとなった。

このプロジェクトは、メニコンなど約230の企業と個人の賛助を得て、公益社団法人スター・クラシックス協会が実施。18～30歳を対象に、プロとしての総合的な自己プロデュース力を養成する。一流の演出家、作曲家、歌手、アナウンサーなど幅広い専門家から月に数回、合計30回ほど講習を受け、その間にCBCラジオに出演。来年3月末に成果を発表するガラ・コンサートを開く。

第7期生は次の通り。

安田梨乃（ピアノ）、坂本明子（同）、伊藤里紗子（ヴァイオリン）、玉置菜々子（同）、甫村響生（フルート）、山内実里（クラリネット）、杉浦さくら（サクソフォン）、鈴村萌恵（ユーフォニアム）、天野彰子（ソプラノ）、武田紗那恵（同）。

変幻自在の演出で想像力を喚起

「やさしい革命」

ベルギーの児童演劇カンパニー「コンパニー・デ・ミュタン」とサーカスカンパニー「サイド・ショー」による「やさしい革命～世界をぐるりと歩く、3人の旅のものがたり」が愛知県芸術劇場小ホールで上演された（7月23、24日）。

演劇・ダンス・サーカスの要素を融合させた「子どもと大人のためのリラックスパフォーマンス」。バステルカラーのテントに囲まれた空間で、3人の登場人物が森を抜け、山を登り、海を眺めて旅をしながら、お互いを分かり合っていく物語。



「やさしい革命」提供・愛知県芸術劇場

観客はテントの中に座って鑑賞。上演中は出入り自由で、声を出すのもOK。子ども達は寝転がったり、驚きを言葉にしたりしながら、温かでコミカルな物語を楽しんだ。

3人は言葉をほとんど使わず、ダイナミックに動き、ボール遊びやジャグリングなどで物語を紡ぐ。砂を落として床を区切ったり、蝶の玩具を追って舞台の外へ出て行ったり、空間演出も変幻自在で想像力を刺激した。

終演後、舞台に残った砂で、観客が絵を描いて遊ぶ姿は印象的だった。指に残った感覚も合わせ、この夏の思い出となっていくのだろう。（竹本）

舞台批評

「名古屋パリ祭」

開幕と同時に、音楽と色彩、興奮と歓声が会場を埋め尽くした。西山音楽事務所が主催するシャンソンの祭典「第44回名古屋パリ祭」（7月15日・愛知県芸術劇場大ホール）の華やかなオープニングである。

クミコや美川憲一、前田美波里らの豪華な客演陣、そして名古屋の「プティパリ」を拠点にするシャンソン歌手ら総勢34人が熱唱を繰り広げ満席の観客を魅了した。ここ数年、連続して「パリ祭」を見ているが、客演のスター歌手と、地元出演者の力（歌唱力やパフォーマンス）の差が縮まってきている。うれしいことである。

客演の一人に、初めて見る女性シンガー「鬼無里（きなさ）まり」がいた。経歴を調べてみたら、アクション女優の志穂美悦子ではないか。力強いヴォーカルは夫（長渕剛）の指導の賜物か?!とにかく見事な変身ぶりである。

オーボエに似た朝鮮半島の民族楽器「チャンセナプ」も登場した。奏者はチェヨンドク。哀愁を帯びた音色は分断された半島の叫びにも聴こえた。

クミコが歌う「幽霊」にも圧倒された。マイケルの「スリラー」を連想させる外連味たっぷりのパフォーマンスである。地元勢では「ロンドンに雨が降る」ほかを歌った主宰・西山伊佐子の、一言一言、一音一音を大切にした歌唱に聴き入った。

若手グループの一人、松井仁の艶やかで明瞭なバリトンにも引かれた。

（ウエノ）

客演、ベテラン、若手の共演に喝采



「PETIT-SAMBLE」（撮影・大竹徹也）

抵抗なく聴けた美しい旋律と和声

平田聖子「親鸞」

「苦しい時の神頼み」はするくせに、宗教がらみの催事にはしり込みしてしまう。そんな小生でも臆せずに出掛けられたのが「作曲家・平田聖子の世界～親鸞」（7月17日・愛知県芸術劇場コンサートホール）である。

コロナ禍以前に初めて聴いて以来2度目になる。平田の曲は（歌詞を別にすれば）宗教臭さがなく、抵抗なく受け入れることが出来る。心が洗われるような美しい旋律である。

今回は特に「子供から若い世代に愛唱してほしい」新作8曲が披露された。



冒頭は各地の寺に集う若い合唱団員、約200人による混声四部の合唱讃歌。「合同練習は三度しかできなかった」ことが信じられない高い精度である。続いて6人の声楽家と5人の器楽奏者により、さまざまなスタイルのアンサンブルが展開された。

ソプラノ二人の〝合唱〟に好感

ユニット「楓」

二人のソプラノ釘宮冴月と松永萌、そしてピアニスト中村節のユニット「楓」が初のコンサート「かさなる・かなでる」（7月20日・HITOMIホール）を開いた。

名古屋地区のクラシック・シーンで売り出し中の面々。釘宮と松永は12月に公演される地元制作のオペラ「銀河鉄道の夜」にメーンキャストとして出演が決まっている。また作曲家でもある中村は、プロデューサーとしての活動が期待されている。



3人に共通する音楽経験が「合唱」であることから、今回のプログラムは「さびしいカシの木」や「遥かな時の彼方へ」など日本の合唱曲8作が演奏された。ソプラノ二人による〝合唱〟ではあったが、曲に込められた作家の思いは伝わった。面白い企画だと感心した。

出演者がアトランダムに、歌いたい曲を歌うコンサートほどつまらないものはない。「楓」にはぜひ、テーマやドラマ性を明確にしたコンサートを続けてほしい。

キリスト教には多くの聖歌があり、宗教とは無関係に各国で愛唱されている。しかし日本にはそれがなかった。「日本人の宗教観を変える旋律と和声」と評される平田の曲が、広く市井に支持されることを願いたい。

（シゲル）

間奏曲

楽しい「いいとこ取り」の演奏会

セントラル愛知交響楽団が「超！有名曲シリーズ」で10月17日、有名序曲集を愛知県芸術劇場コンサートホールで開く。指揮は角田鋼亮。

序曲は主にオペラの幕が上がる前に演奏。予告編的で聴きどころのメロディが詰まって楽しい。チラシには『いいとこ取り』とある。

「フィガロの結婚」「セビリアの理髪師」「天国と地獄」「魔弾の射手」など全9曲。異色なのはブラームス「大学祝典序曲」でオペラではない。締めは重厚な「ニュルンベルクのマイスタージンガー」だ。

有名なオペラで予定がないのは「カルメン」くらいか。私はロッシーニ「ウイリアム・テル」序曲も好きだ。

このシリーズは、今さらという気もするが、逆手を取った初心者向けの好企画と言える。

序曲のほかにも、オペラの間奏曲、行進曲、ワルツなど、定期演奏会では取り上げにくい有名な小品はたくさんある。このシリーズならではのプログラムを期待する。

（上原宏）

舞台批評

全作品に〝継承・継続〟の理念

かやの木芸術舞踊学園

かやの木芸術舞踊学園が「第30回記念舞踊公演」（7月19日・土岐市文化プラザ）を開催した。第1部は小品9作、第2部は和太鼓演奏とダンスのパフォーマンス「響」、そして第3部は創作ダンス劇「BUILT」（いずれも構成・振付は木原創&友里夫妻）。

上演された全作品に、初代学園長の平田宏之（故人）と妻の陽子が立ち上げた〝継承・継続〟の理念が貫かれている。その理念が指導者、生徒、作品のすべてに浸透し、全国でも屈指のステージとして結実。やがて次代に継承されるのである。

今回、第1部で私の興味を引いたのは、児童8人による「栗きんとんの歌」と「Sanctuary ～聖域」の2作。前者は学園本部のある中津川市の名物菓子をコミカルな衣装とダンスで構成した小品。かわいいだけでなく、しっかり稽古を重ねていることが分かる。猛烈に栗きんとんが食べたくなった（笑）。

後者は第83回全国舞踊コンクール群舞部第1位を獲得した秀作。17人の出演者は森に生息する植物だろうか。文明に追いやられ、絶滅したかと思われたが、ラストに小さな芽を出し、したたかさを発揮する。主力ダンサが見ごたえのあるパフォーマンスを展開した。

「響」と「BUILT」は再演だが、作品力が朽ちることなく継続されている。随所に修正が加えられ、常に団員たちが作品を磨き上げているからだろう。



「Sanctuary」（撮影・田中聡／テス大阪）

ピカイチは松宮&内田の創作作品

舞い舞いナゴヤ

「核兵器廃絶・平和を守る名古屋舞台人の集い」が「舞い舞いナゴヤ」（7月25日・千種文化小劇場）を開催した。出演したのはバレエ、現代舞踊、ジャズ、そして日舞の13組。出来栄えにバラツキはあったが、それぞれが工夫を凝らしているのが分かった。

その中で、私の選んだピカイチは松宮莉花&内田亜紀子・作、内田がソロで踊った「躊躇する正義」だ。理由は公演のテーマを踏まえた作品を、優れたダンスで体現していたこと。内田の舞台は今後も注目していきたい。

群舞では、現代舞踊の王道を示した秀奈都代&飯田佳世・作「ヒトは水」（11人）と、世界の人々の交流をコミカルに描いた神戸珠利・作「エントランス」（9人）が際立った。神戸にこんなユーモアがあったとは（笑）。

日舞の西川長秀は日中友好をテーマに、中國舞踊のリヤンと共演。中国琵琶などの生演奏を加え時空を超えた国際的なラブロマンスを作劇。花柳磐優愛はミュージカルナンバーを用い、木下菜月とともに色香あふれるドラマ（振付は花柳磐優）を立ち上げた。

（シゲル）



「躊躇する正義」内田亜紀子（撮影・服部義安）



会員募集

「ナゴヤ劇場ジャーナル」では発行をご支援いただけるサポート会員を募集しています。会費は年間6600円（税込み）。会員には小紙を毎号お届けするほか、紙面にお名前を掲載（希望者のみ）。会員の関係する公演、イベント情報を優先的に掲載させていただきます。

【お申し込み、お問い合わせ】
㈱マネージメント・プロ
TEL 052(508)5095
郵便振替口座 00880-6-206130

私たちは「ナゴヤ劇場ジャーナル」を応援します

青山 皆江　蟹江 尾八　手塚 淑子
秋田巳喜子　神谷久美子　戸田美江子
荒川 洋子　北村 哲也　中川 幸作
飯田みち代　工藤寿々弥　仲条 優理
出田 光代　佐藤 典子　夏目 久子
伊藤 修　佐藤美智子　名鶴ひとみ
伊藤 敬　佐野 和美　西川 長秀
伊藤 直樹　澤脇 達晴　野村 祐子
稲垣 舞比　白樺 八青　花咲 市岡
衣斐 愛　花柳 磐優
今村 早伽　杉江 瑠美　林 雅仁
内田 寿菊　鈴木 幾子　福井 啓子
内田寿千代　鈴木久美子　渕本晴都子
内田 寿晴　鈴木 文雄　松波千津子
内田るり千鶴　須山 仁美　松本 道子
内田るり美　角田真優美　見波 紀子
大寺 資二　高倉 麻耶　宮西 圭子
岡田 一男　武市 孝三　山口 雅子
岡崎 保彦　竹元まき子　よしみゆうこ
小倉ひろこ　田淵友佳理　渡部 千枝
小野由加利　玉田 弘子
金澤 志保　つつみあつき
ほか

和光写真／㈲テス・大阪／㈱三光／Hide Dance Lab.／㈲ビデオ教映社／松岡伶子バレエ団／エス・エー企画／Office KAN NORIKO BALLET STUDIO／かやの木芸術舞踊学園／春日井市日本舞踊協会／メリー・アーティスツ・カンパニー／関山スタジオ 特定非営利活動法人日本室内楽アカデミー 理事長 佐々木伊利子／ミュージカルアカデミーKAO／（一社）復曲能を観る会 フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋／明珠会 山村楽乃／川島ナナバレエ研究所／スマイル・ミュージカル・アカデミー Rose Ballet Academy／越智インターナショナルバレエ／Rrバレエスタジオ 杉江瑠美／一般社団法人イタリア音楽振興会

上原宏の☆音楽☆聴き歩き

愛され親しまれ24年の活動に幕



ダブルリード

名古屋ダブルリードアンサンブルが24年の活動に幕を閉じ、ファイナルコンサート（7月9日・熱田文化小劇場）で人気作品を集めた。

前半はレスピーギ「リュートのための古代風のアリア」第3組曲から「シチリアーナ」、マルチェロ「オーボエ協奏曲」第2楽章などクラシック曲を、後半はメンバーの自作曲や「オールディーズ・メドレー」など、集大成的なプログラム。

オーボエ、バスーンなどリードを2枚使う楽器奏者9人で編成。代表の山本直人の指導で、幅広いレパートリーを緊密なアンサンブルを披露してきた。今回も見事なチームワークで満員のファンを満足させた。

演奏レベルの高さに加え、ユーモアに富んで、客を楽しませ自分たちも楽しく演奏する精神が素晴らしかった。

結成5年、充実のアンサンブル

「ロクイー」

弦楽四重奏団「ロクイー」の第5回演奏会（7月30日・HITOMIホール）は、女性らしい音色で和ませた。

ヴァイオリンがビルマン良弓光（まゆみ）、小笠原優子、ヴィオラが為貝香織、チェロは野村友紀。中堅どころで経験豊富な顔ぶれだ。

今回はモーツァルト「弦楽四重奏曲第19番・不協和音」、ウェーベルン「緩徐楽章」を挟んでブラームス「弦楽四重奏曲第2番」と、弦楽四重奏の流れを考えた選曲。

「不協和音」で始まるが、全体的に明るく軽快なモーツァルトらしい傑作。「緩徐楽章」は学生時代の作だが、ウェーベルンの片鱗が見える。

ブラームスは、抒情的で美しい前半、躍動感ある後半と、大作だが緊張感が途切れない。



結成5年、アンサンブルは益々充実してきた。

ヴァイオリン四重奏の音色に感心

名フィル室内楽

電気文化会館の開館40周年と、名フィルの創立60周年を記念した室内楽コンサート〈夏〉（8月4日・電気文化会館）。

ヴァイオリン平田愛ら



のベートーヴェン「弦楽三重奏曲第4番」で幕開け。繊細で緻密な音に魅せられた。チェロの加藤泰徳が作曲した「弦楽四重奏曲・アルフレッド」は、近代的で斬新な力作。

派手な音で聴衆を沸かせたのはトロンボーン田中宏史らの四重奏。コーラプランド「エル・サロン・メヒコ」ほか。

私が一番興味を持ったのは、尾高詩音里らのヴァイオリンだけの四重奏。同じ楽器でも多彩な音が出ることに感心した。

締めはヴァイオリン矢口十詩子らの弦楽五重奏。ピアソラ「ブエノスアイレスの四季」で鮮明に季節感を表現した。













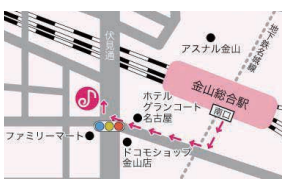








奏でる人を聴きたい人へ　人と音を結ぶ
♪クラシック名古屋
052-678-5310
金山総合駅 南口より徒歩3分
名古屋市中区正木4-8-7　れんが橋ビル1F



クラシックコンサートのチケットは
アイ・チケット 0570-00-5310
(11:00～16:00 ※土日祝休)
アイ・チケット 検索
お好きな時間にお好きな席を選んでクリック♪

クラシック名古屋のプレイガイド
「アイ・チケット」
多くのクラシックコンサートのチケット販売から、ホール、座席のことまでオペレーターが、丁寧に対応いたします。
ホームページからもチケット購入ができる、便利なクラシック専門のプレイガイドです。